

授業科目：基礎看護学実習Ⅰ（人間関係成立、対象の日常生活支援）

科目目標：看護の対象の療養環境を知り、良好な人間関係が築けるとともに、必要な日常生活援助が実施できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 病院・病棟の構造がわかり、対象の療養環境について述べることができる。	1) 対象を取り巻く環境の理解 (1) 病院の概要、構造 外来、手術室、中央材料室、薬剤科、検査科、放射線科、栄養科、リハビリテーション室 等 (2) 病棟の構造及び患者の療養環境 病室、病床、ナースステーション、浴室、洗面所、面会室、リネン室、トイレ、廊下 等 (3) 対象に関わる様々な職種	<ul style="list-style-type: none"> ・病院を見学、説明を受ける。 ・病棟のオリエンテーションを受ける。 ・「病院・病棟見学記録用紙」に対象を取りまく環境についてまとめる。 ・病院の概要・他部門との連携について講義を受ける。 ・病棟オリエンテーションと看護師に付いての見学を通して患者の療養環境を学ぶ。
2 受持ち患者と良好なコミュニケーションを図り人間関係を築くことができる。	1) コミュニケーション 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度身だしなみ 2) 援助場面 援助の目的と方法の説明・承諾、患者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師に付いて援助、コミュニケーションの仕方などを見学する。 ・1名の患者を受け持つ。 ・受持患者はコミュニケーションがとれ日常生活援助が実施できる患者とする。 ・他者に与える印象や影響を考える。 ・受持ち患者の病状・治療・安静度等について、指導者から説明を受ける。 ・受持ち患者の日常生活に関する情報を、カルテや観察・コミュニケーションから得て「患者情報シート」に整理する。
3 受持ち患者の入院生活の状況や、入院によって生じる日常生活の変化を理解できる。	1) 日常生活の理解 (1) 動く、お風呂に入る、トイレに行く 息をする、食べる、話す、見る、聞く、眠る (2) 病気や治療により生じている日常生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術は実習前に知識の確認と練習を重ねて行う。 ・計画実施表を教員及び指導者に発表し助言を受ける。 ・実践する援助は、計画実施表①及び②に記載する。 ・V S測定は教員・指導者とともに測定し、値の確認を受ける。
4 受持ち患者の援助の必要性がわかり、日常生活の援助が原則に基づいて実施できる。	1) 日常生活援助の計画 (1) 援助の必要性 (2) 原則に沿った援助計画 (3) 援助実施時の留意点 2) 原理原則に基づいた援助の実践 (1) 援助に必要な物品の準備 (2) 患者の準備、患者への適切な説明 (3) 安全・安楽を配慮した援助の実施 (4) 実施前・中・後の患者の反応の観察	<ul style="list-style-type: none"> ・実施後の報告は、簡潔に明確に行えるように、事前に内容を整理しておく。測定値はフローシートに記載し報告する。 ・計画したこと以外に実践・見学したことについても記載する。
5 実施した援助を振り返り、今後の課題を明確にできる。	1) 実施した援助の振り返り (1) 実施した援助の結果・評価 良かった点、悪かった点、今後どのように実践すればよいか (2) 実施した援助の安全性についての振り返り 安全に援助を実施するための留意点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日カンファレンスを実施し、学びの共有、援助に関する事柄について自己の考えを深める。また、司会、メンバーとしての役割を果たす。 ・学習が不足していることや疑問点は調べ、主体的に学習する。 ・他者の意見や助言を活用する ・実習で学んだこと、今後の課題をまとめて記載する。
6 看護学生としてのふさわしい態度がとれる。	1) 学習者としての役割の自覚、誠実性、責任 (1) 守秘義務、個人情報の管理 (2) 報告、連絡、相談 (3) 計画的な学習への取り組み (4) 約束、時間の厳守 (5) 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日カンファレンスを実施し、学びの共有、援助に関する事柄について自己の考えを深める。また、司会、メンバーとしての役割を果たす。 ・学習が不足していることや疑問点は調べ、主体的に学習する。 ・他者の意見や助言を活用する ・実習で学んだこと、今後の課題をまとめて記載する。